

# ” ペデジャーなる ” Web

OB・OGと現役生を結びながら、懐かしさと新しさ香るつくばの風を、季節の便りとしてお届けしていきます。

## “ ペデジャーなる ” 2013年秋号

2013年11月1日



筑波大学メ - ルマガジン “ ペデじゃ - なる ” 2013年秋号



OB・OGと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

## INDEX

### 1 今昔ペデ南下旅

連載再開！今回は遂に3つ目の宿舎へ...知っているようで知らない追越エリアの散策です！

### 2 筑波大学ニュース

今年の10月、筑波大生にとってなくてはならない「あれ」に関する新制度ができたのです。

### 3 つくば 夢の国

誰もが行きたいあの夢の世界へ、つくばからなんとドア・トゥ・ドアで行けてしまうのです！

### 4 ペデあぶろーど

今回はオリンピック候補地として争いましたね！トルコはイスタンブールの魅力をお届けします！

## 5 ノンフォーマルな集中講義

先生の話聞き試験に備えるだけが講義ではない？留学生が見た一風変わった講義の体験感想です。

## 6 筑波大学宣揚歌「桐の葉」

「桐の葉」この歌を歌える方はどのくらいいらっしゃるでしょう。歌に込められた思いとは...？

## 7 人文社会系（歴史・人類学専攻）教授 小口千明先生インタビュー

巡検に持って行くお菓子といえば、オレオ！そんなお茶目な小口先生へのインタビューです。

# 1 今昔ペデ南下旅



朝晩の風が肌寒くなりました。秋ですね。時が経つのは本当に早いものです。

前回の夏号では南下旅をお休みしていました。というのも、4年生の代名詞のひとつである教育実習と戦っていたからです。想像していたよりもかなり過酷な3週間でしたが、とても勉強になる時間でもありました。高校生はとても可愛かったです....。

さて、今回は追越宿舎付近をぶらぶら。春号でお届けした平砂宿舎同様に改修が進み、綺麗な棟が姿を現しています。追越といえば私の中ではここです。半円型に並んだ宿舎！開放的で個人的にはお気に入りの景色です。この日はちょうど天気も良く、空が澄んでいて気持ちのいい日でした。ここで芝充するのも良さそうです。（芝充については2012年冬号参照）



ところでみなさん、「追越」ってなんて読みましたか？「おいこし」？...いえいえ、違うんです。実はこれ「おっこし」って読むのだそうです。（私もつい最近知りました。）いつからか、「おいこし」に変わってしまったのだそうですが、日々の地理専門の先生は「『おいこし』じゃなくて本当は『おっこし』なんだよ！」と力説していました。今となっては「おいこし」の方が主流ですが、本来の読み方に戻るときは来るのでしょうか。...うーん、そのためにはまず、循環バスのアナウンスから変えて頂かないと、新入生にわかってもらえないかも...（笑）



左手の少し奥に見えるのが「ゆりのき保育所」。  
学内に「保育所あり」の標識があるのは新しい発見です。

追越宿舎の近くには、保育所があります。その名も「ゆりのき保育所」。追越宿舎にあった食堂を活かした保育所で、「2006年ゆりのき保育所プロジェクト」という名のもとにリノベーションされたのだそうです。（前回紹介した「ADP」の一環なんだとか。）筑波大学の職員のお子さんが通っているようで、天気の良い時には子どもたちが学内を散歩している姿が見られて、ほっこりした気持ちになれます。私たちにもそんな時代があったのですよね…。思わず遠い目をしてしまいます。

芋栗南瓜が大好物の私は、秋の訪れに嬉々としています。食欲の秋ですね。学内のあちこちでどنگりもちらほら。もっと秋が深まれば、紅葉も見られますね。秋はなんだか物寂しい気持ちになりますが、美味しいもの、美しいものに心が満たされるのも、秋ならではです。私たちはここからが正念場。秋に癒されながら、頑張っていきたいものです。



（人文・文化学群 日本語・日本文化学類 亀川かすみ）

## 2 筑波大学ニュース

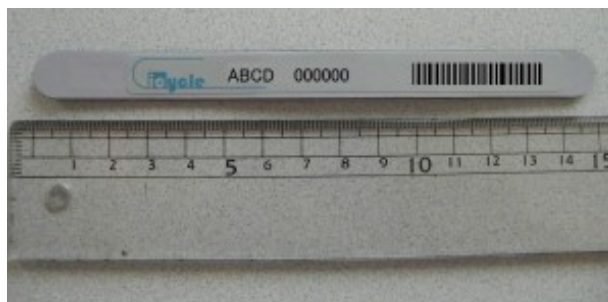


筑波大学生の必需品といえば、自転車！ですよね。教室移動の時、ご飯を食べに行く時、買い物に行く時、遊びに行く時...何をするにも欠かせない、まさしく生活の足。大学生活で自転車に強い愛着を持った方も多いのではないのでしょうか。とはいえ、春先の自転車渋滞、駐輪場の混雑、進路を妨害するように置かれた自転車、拳句の果てには盗難と、大変な思い出もたくさんあるかもしれません。筑波大学では、そんな自転車、そしてバイクのマナー改善、盗難防止のため自転車・バイクの登録制度が始まりました。

10月から始まったこの登録システム。とっても簡単です！すでに在籍している学生なら簡単な書類を提出するだけで無料で専用のICタグを受け取ることができます。それを自転車やバイクの見やすい所に貼るだけです。このタグには学生一人一人に番号とバーコードが割り振られており、駐輪スペース以外や通行の邪魔にな

る場所に駐輪するとタグから個人が特定され注意されてしまいます。こうした違反行為を重ねると担任の先生等から直接のお叱りを受けることもあるそうで...なんだか自動車の違反点数みたいですね。ちなみに、このタグを貼っていない無登録の自転車・バイクは撤去されてしまいます。

私も早速、愛チャリのためにICタグを受け取ってきました！正方形のシールで番号でも書いてあるのかなと思っていたのですが、予想外の形状です。ペラペラではなく、割としっかりしていて厚みがあります。長さも15cmほど。思わず「でかい...」と呟いてしまうような存在感です。厚みが



あり、しっかりしていて細長いので貼る場所にも悩みます。結局サドルとハンドルの連結部分？に貼ってみました。周囲を見ても、ここに貼るのがメジャーなようです。

さあ、これで以前と変わらず駐輪できるようになりました！この登録制度で少しでも自転車の駐輪マナーが改善されて移動しやすくなったり、盗難が減ったりすればいいですね。とはいえ、もう4年生の秋学期。あと半年で私の学生生活も終わりです。登録制度、来年の4月からでも良かったんじゃないかななんてこっそり思うのでした。

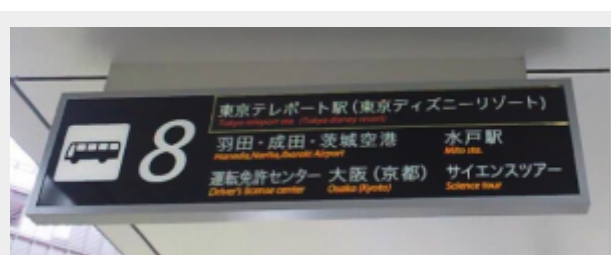
(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 野川佳奈代)

### 3 つくば⇄夢の国



大学生は、長期休みが本当に長期！という利点を活かして旅行することが大きなイベントでもありますよね。なかでも夢の国、そう東京ディズニーリゾート（以下TDR）は多くの人が行きたがる憧れの場所でもあると思います。つくばには、そんな夢の国TDRへのお得なアクセスができたのです！これは大ラッキー！

少し前になってしまいますが、2012年3月からつくばセンターとTDRをつなぐ高速バスが運行を開始しました。



つくばセンター8番乗り場に追加された

1日4往復で完全予約制、片道1500円ですが往復チケットを購入すると、往復で3000円のところが2500円になるので。電車を利用するとつくば駅と舞浜駅の往復運賃は2500円なので運賃は変わりませんが、やはりゆったり座って行けるというのは魅力的ですよ。便数は1日4往復（2013年8月10日改定）で、所要時間は片道約1時間となっています。バスの座席は44席で、座席指定はできないものの乗客全員が座ることができ、トランクルームも備えてあるのでお土産をたくさん買っても安心です！

そこで早速高速バスを利用してTDRに行ってきました！7人で行ったのですが無事全員好きな座席に座ることができたので、おしゃべりを楽しんだり、朝ご飯を食べたり、寝たり...と、車内はゆったりと過ごすことができました。バスは園の入り口で停まってくれるので本当に便利！感動！はしゃぎすぎて疲れた帰りもバスの中でぐっすり寝ることができました。今後は高速バスを利用してTDRへ遊びに行く筑波大生が増えていくことかと思えます。そしてつくばセンターには今後どんな路線が増えていくのかも、期待したいところですね！

（人間学群・障害科学類 岡山未季）

## 4 ペデあぶろーど



突然ですが、みなさんの人生で一番大きな買い物はなんですか？私はこの夏にした買い物が一番大きな買い物になりました。パソコンのスクリーンに表示された料金に、縮む心臓、震える手。葛藤の中やっとの思いでゲットしたのは、トルコへの航空券でした。そこで今回は、4泊5日のトルコ旅行の中で、私が見つけたイスタンブールの魅力を紹介したいと思います。

### 1. 市内に犬や猫がいっぱいいる

まずイスタンブールに着いて驚いたのが、そこが犬猫パラダイスだったことです。道路際や道端に目を向けると犬が気持ちよさそうに昼寝していたり、店によっては看板猫なるものがいたりします。動物好きにはたまらないですね！



靴屋の看板猫  
残念ながら商品ではありません



昼寝中の野良犬  
生きています

## 2. 日本語を話せる人が多い

外に出ると、日本語で話しかけられることが本当によくありました。例えば、コンニチハ！ニホンジン？カワイーネ！オハヨー！などなど、中には思わず顔がにやけるワードも入っていますね。ただし、このような声掛けのほとんどは商売、または色恋目的なので、軽くあしらってモチ気分を楽しみましょう。

## 3. 空や海がきれい

旅行中は天気にも恵まれ、トルコならではのきれいな空や海を見ることができました。私は3日目にボスフォラス海峡のクルーズに行ってきたのですが、風を感じながら歴史的な建造物を見ることができて、とてもいい思い出になりました。ちなみに料金は船によって異なり、10～12トルコリラ、日本円にして600～700円といったところでしょうか。



イスタンブールの空



フェリーからの景色

さて、私が見つけたトルコの魅力、いかがでしたでしょうか。イスタンブールはなんといっても、ゆっくりと時間が流れるすてきな街でした。たまには休暇をとって遠出してみるのもいいかもしれませんね。

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 河原一愛)

## 5 ノンフォーマルな集中講義



私は夏休みの最後にティーチングアシスタントとしてとても魅力的な集中講義に参加しました。集中講義は9月23日から26日までの4日間をかけて、行われました。今回、集中講義を担当している先生はユネスコバングラディッシュ事務所に勤め、識字教育を研究している先生です。授業内容は主に、生涯学習実践をめぐるものです。

今回の集中講義を通して、私は新たな授業形式を感じ取ることができました。それは、今まで、先生が一人で授業をするというフォーマルな授業方法と異なります。受講生はグループになって、一つの課題をめぐるって討論し、まとめた内容を模造紙で図式化した後に、発表するという形式です。しかも、発表した後に、作ったものを全部教室の周りに貼っておきます。そして、先生も授業内容のポイントをホワイトボードに貼っておきます。



最初はこのような授業形式の目的をあまり理解できなかったです。先生が受講生全員を講義中に積極的に参加させるために、グループごとに討論するという形式で進んでいます。ただし、模造紙で作った発表内容を教室の周りに貼ることに對して、少し驚きました。まるで、幼稚園のような感じです。しかし、講義が進んでいる間、このやり方の魅力的なところを自分なりに感じ取りました。それは、受講生が講義を通して感じ取ったことを自分の目で見えるし、先生が講義の中で、強調した点もいつでも思い出せるということです。そして、目で見えるものを自分の中で新たに整理し、自分のものにすることが、このノンフォーマルな授業形式の目的ではないかと思いました。

これから、学生を授業中に自主的に参加させるために、フォーマルな教育方法とともに、ノンフォーマルなやり方も加える必要があるのではないかと感じました。現在、中国の学校教育はただ進学試験を対応するために行っている教育となる傾向が強いです。中国では、このような教育を「応試教育」と呼びます。しかしながら、学校教育はただ進学試験だけを目指すのではなく、学生に発散的な思考能力も必要であると思います。したがって、今後の中国の教育もノンフォーマルな教育方法を導入すべきだと思います。



## 6 筑波大学宣揚歌「桐の葉」



みなさんは筑波大学の「歌」についてどれくらいご存知でしょうか？現役筑波大生の間で有名な歌といえばなんととっても最近できた「IMAGINE THE FUTURE」だと思いますが、他にも様々な良い歌があります。今回読者の方から「桐の葉」という歌について取り上げてほしいというリクエストをいただきましたので、筑波大学の宣揚歌である「桐の葉」について紹介します！

「桐の葉」は大正8年の大学昇格運動の際に当時学生であった大和資雄（やまとやすお）氏がこの運動の応援歌として作詞し、事実上の校歌として歌われるようになり、全校に広がっていきました。

筆で「桐の葉は木に朽ちんより…」と一気に書き上げられた歌詞には、「日本の教育を担う高等師範学校が尊重されないのであれば廃校も辞さない」という強い思いが込められています。

そして昭和48年に東京教育大学から筑波大学に生まれ変わる時、東京教育大学最後の学長となった大山信郎教授によって3番が作られました。

「(教育大のあった)東京大塚の地の歴史はここに終わるが、茗溪の歴史の流れは新天地筑波で永遠に続いていてほしい」

そんな願いを込めた3番を加え、桐の葉の伝統は新生筑波大学に受け継がれました。

そして、開学30周年を迎えた平成15年に北原保雄学長が作詞した4番が加わり、今も学生、同窓生に歌い継がれています。

このような想いで作られた宣揚歌「桐の葉」ですが、だんだん知名度が低くなっているように感じます。以前は行事などでも歌われていたようですが今は知っている学生も少ないようです。私はサークルで合唱をやっているのですがこの歌は歌ったことはありません。せっかく筑波大生になったのですし、筑波大学の宣揚歌にも触れていきたいですね！

最後に現在の歌詞の全文を掲載して終わりにします。（歌詞は時代を経て変わっているようです。）ぜひ筑波大学のことを思いながら読んでみてください。

### 一、桐の葉は 木に朽ちんより

秋来なば 先駆散らん

名のみなる 廢墟をすてて

醒めて起て 男の子ぞ我等

二、日本の 教の庭に

いと高き 学舎ありと

人も知る 茗溪の水

よし濁れよ 濁さんよりは

三、年を経て 百年過ぎぬ

今ここに 水は濁るとも

新泉は 筑波の麓に

いざ立たん 若人われら

四、桐の葉は 筑波の庭に

いや繁り 三十年過ぎぬ

新しき 世紀を拓き

いざ行かん こぞりて吾等

(社会・国際学群 国際総合学類 篠木菜月)

## 7 人文社会系(歴史・人類学専攻)教授 小口千明先生インタビュー



4年生の秋。卒論を控える学生の頭の中は「卒論卒論卒論...」。私もそんな卒論に追われる4年生の一人です。私の所属するゼミは小口千明先生の「生活文化の地理ゼミナール」。小口先生の思わず引き込まれる興味深いお話と、穏やかで親しみやすいキャラクターに、ゼミ生でなくてもファンの学生は多かったのではないのでしょうか。今回は小口先生にインタビューを(理由に、お近づきになりたいがために)してまいりました!

先生が地図を読み込んでいらっしゃるって、いろんな場所を訪れていることは多くの学生が知っていることだと思うのですが、それ以外にお休みの日に何をして過ごしていらっしゃるのですか？

割と同じような感じで、出かけてるのが好きって感じですかね。地図と照らし合わせて見るっていうのが教材とか授業や研究とかっていうことが多いんですけど、自分一人だったら地図見ないで、特に東京の車の来ない階段のある道とかね、あるいは細い路地とか、そういうところを歩くっていうのは好きですよ。それから、勉強や研究だけじゃないものですから、スーパーマーケットとかそういう中を見たりするのが好きで。路地歩き好きな人っているけど、スーパーの中で品物見るのが好きっていうのは割と少ない感じしますよね。特に日頃生活してる場所じゃなくて少し離れた東京とか水戸とか地方都市のスーパーに入って品物見るっていうのはとっても楽しいですね。だいたいその品物の製造地を見るって感じですかね。和菓子なんかはね、全国流通品があると思うんですけども、土地の和菓子がスーパーに入りやすいんですよ。スーパーってね、即席食品とか袋に入った品はどれも同じで大手の品が入ってるんですよ。そういうポテトチップスとか丈夫な袋に入ったものに比べて、和菓子なんかは以外に近くで製造されたものだったりして、それも高級な和菓子とは限らなくて、「こんな田舎の街でこういう和菓子作ってるんだー」とか、そういうのがとっても楽しいんですよー。

つくばにいて、意外なところでばったり生徒と会うことがあるようです。

びっくりするような事もあって、みなさんから見ればご立派な先生でいらっしゃる比較文化学類の日本史の山澤先生。山澤先生ももちろん大学院生時代がありで、うどんの民芸で確かバイトしておられたから、あるときうどんの民芸で食べてたら山澤先生が運んできてくれて、これは残せないなっていうこともありましたよね。他に、学生さんである人ラーメン屋さんでバイトしてたなっていうことを思い出しますよね。講義科目の人ってバイト先聞くチャンスなんてないじゃないですか。だから偶然出会うと教員の方が汗かく感じだと思うんですよ。お店のもの残しにくくなったり、そもそも注文する品物もなんとなく緊張しちゃうよね。「これ頼もうかなー」とか思って入るけど、違うものにしそうになったりするよね。

卒業生やこれから卒業する学生に対する想いを教えていただきました。

ゼミ生には「東京を知っておくっていうことはいい事なんだよ」って言ってるんですよ。それは乗り換えを間違えずに出来るって言うんじゃないかって、東京のお店をいくつか知っておくっていうのはね、社会人になってから幹事とかやるでしょ。筑波大学はいい大学なんだけど、致命的な欠陥は東京を知らずに卒業しちゃうということで、学問と関係ないんだけど、東京の会社員で東京を知らないことをうんと田舎者みたいにみる傾向が

あるの。そのためにはつくばにいる頃から東京に行って、そのときに行きつけのお店があるっていうのは悪いことじゃないんだよね。そういうの持って「新木場ですか？あの店は好きなんです」というのがあるとね、いいと思うんだよね。東京利用法みたいのも一緒にやりたいくらいなんだよね。立ち止まってキョロキョロとかがって東京のスタイルじゃないわけね。歩きながら看板見て、もうその曲がる地点に行くまでには右に行くか左に行くか決めておくっていうのが東京の歩き方なんです。立ち止まらないっていうのがとても重要なんだけど、地方出身でつい立ち止まっちゃったりなんかするっていうとね、そういうところを会社の人に「やけにこいつ立ち止まるな？」とかがって思われたりすると田舎くさく見えちゃったりするからね、実践したいところなんです。」

何度東京に行ってもキョロキョロ必須の田舎者の私には、就職が実家の長野に決まっていることにほっとしているけれど、「実践東京講座」受講希望です。東京の会社にお勤めのOB・OGのみなさんは共感する部分が多いのではないのでしょうか。

印象に残っていて忘れられない生徒はいますか？

そうねえ。とりわけこの人っていうのは少ないかなあ。研究って仕事してると進学した人の方が目の前にいて忘れようがないってのはあるけど、社会人になった方々とかで結果的に立派な卒論書いたけどスタートから大変だったなって思い出すことはありますよね。でも、苦労した人ほど可愛いって面もあるかな？あとは、あまりに立派で大勢の人に読んでもらいたいような論文もあることはあるんだよね。力作、結構多いゼミだと思うんだよね。土浦の花火大会の研究した人なんかもあってね。丁寧によく調べてね。今みたいに電子出版か何かできれば大勢の人がきつと花火大会の前後に読んでくれるに違いないなんて思ったり。活字媒体にしても... なんならそこに書店だして売りたいなんて(笑)思うほどいい論文だったんだけど。(中略)卒業生とは、2年に一度くらいは集まりたいよね。何よりも後輩と先輩と接点持って社会の中で役立たせていくっていうのが日々ちょっと弱いね。学年輪切りってよく言われるんだけど、学年は結束力強いんだけど、せっかくネットワークがあるんだからそれを一学年上下にあったら、かなり強いだろうけど、まだ実現していないんだよね。(中略)卒業生で、広島県の尾道で漫画家志望の今は画家として絵葉書とか広報誌の挿絵とか書いている人がいるんだよね。この間瀬戸内の実習やった時に初日にその人と会って、案内を頼んだりなんかしたんだけど、その方の奥さんも日日の方で、しかも在学中に交際していたんじゃないっていうね。

ええー！そうなんですか。

本当に日日が縁で結ばれてるっていうそういう人もいるんだよね。

私には卒論のお話になると耳が痛いのですが、卒業生としては懐かしい想いが強いのではないのでしょうか。ところで、メルマガメンバーだとどんな卒論テーマやゼミの所属があるのかというと、「ガリヴァ旅行記におけ

る日本の記述について」がテーマの江藤ゼミ生、「国語教育での作文について」がテーマの長田ゼミ生、「映画のシーンにみる談話分析」をテーマにしている澤田ゼミ生。そういう私は実家の伝統工芸、上田紬に関連したテーマを調べています。このバラエティーに富んだ卒論テーマも日々の特徴ですよ。日々4年生で話しているとそれぞれゼミにも特色があって驚かされます。

小口先生も気にかけていらっしゃった縦割りのつながりについては、以前、インタビューでお話を伺った芸術の蓮見孝先生も気にかけていらっしゃいました。なかなかつながりを作りづらい縦のつながり。私たちのペデジャーなるの活動はとても大切なものと改めて実感しました。

インタビューにご協力してくださった小口先生。ありがとうございました！！

(人文・文化学群 日本語・日本文化学類 関崎美久)

参考リンク：[日本語・日本文化学類の教員紹介ページ](#)



#### 🍁 編集後記

ループに落ち葉が目立ち始め、徐々に秋色に染まってきたつくばより、ペデジャーなる秋号のお届けです。先日、夜中に突然飲み会に誘われました。つくば市在住の筑波大生なら珍しいことではありませんよね。みなさんにもそんな経験があったのではないのでしょうか。ちょっとの距離くらい大丈夫だろうと高を括って防寒もおろそかに外へ。ぶるり。寒い。さらに自転車を漕ぎ始めると耳がちぎれそう…。10月でこれです。今年も筑波風が厳しい寒さを運んできそうです。

さて、ここで大学よりお知らせです。

明日、11月2日から4日まで、筑波大学学園祭 雙峰祭

が開催されます。今年は2学期制が始まった関係で11月の開催です。気になる時間ですが、2日は前夜祭のため、15:00～、3日・4日の本祭は10:00～スタートです。お時間のある方は是非是非お越しください！（特に夜は寒さ対策を万全にしてくださいね。）たくさんの方々のご来場、お待ちしております！

詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

🍁 筑波大学 公式ホームページ: <http://www.tsukuba.ac.jp/>

🍁 筑波大学 facebook: <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>

🌸 筑波大学校友会SNS「KUTTUK ba」: <https://alumni.tsukuba.ac.jp/>



🌸 編集・発行

「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ

🌸 デザイン・配信作業

人文・文化学群 日本語・日本文化学類 関崎美久

情報学群 情報メディア創成学類 酒井佑弥

🌸 ご意見・問い合わせ先

国立大学法人筑波大学 連携・渉外室

〒305-0821 茨城県つくば市春日1-8-3筑波大学春日プラザ1階

TEL:029-853-2030 FAX:029-853-6576

[gakuyu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:gakuyu@un.tsukuba.ac.jp)

🌸 配信停止をご希望の方

下記メールアドレス宛に『配信停止希望』の旨明記し、送信してください。

[gakuyu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:gakuyu@un.tsukuba.ac.jp)

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

Copyright © 2013 University of Tsukuba. All Rights Reserved.